

第2学年音楽科学習指導案

盛岡市立仁王小学校

指導者 一井 陽子

題材名 ドレミであそぼう

題材について

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の内容「A表現(1)のイ 階名で模唱や暗唱をしたり、リズム譜に親しんだりすること。」及び、「A表現(2)のイ 拍の流れやフレーズを感じ取って、演奏したり身体表現したりすること。」にかかわる学習を中心に設定した。

本題材の目標は、階名に親しみ音高感を身に付けたり、音高に伴うフレーズ感や強弱感を感じ取って表現できるようにすることである。この目標を達成するため、以下のような指導を展開していく。

ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」より「ドレミのうた」の抜粋を鑑賞させ、「ドレミの歌」のできた背景を理解させることで、本題材の関心を高める。また、各教材の学習を通し、ドレミ体操や身体表現、階名唱を取り入れ、フレーズを感じ取りながら、音高感やそれに伴う強弱表現を身に付けるようにしていく。

また、旋律楽器を演奏する中で、音高感やフレーズ、拍の流れを感じ取って演奏できるようにしたり、輪唱や輪奏をする中で互いの演奏を聴き合って演奏する楽しさを味わえるようにする。

さらに、楽器で副次的な旋律を演奏して歌と合わせたり、短いふしを創作して合わせたりして、歌と楽器との響き合いを感じながら演奏できるようにする。

音高感やそれに伴う強弱については、ドレミ体操などの身体表現で感覚的に身に付けるとともに、絵譜や旋律線で視覚的に表し、音楽的な要素に気付くことができるように指導していきたい。この音高感を培う感覚的な活動は、扱う教材曲の中で繰り返し行うことで、音高感を確かなものにしたたり、それに伴う強弱に気付いたりすることができるようにしたい。また、この学習活動の中に、音高を感じ取りながら、それに対応した強弱の工夫を一人一人が感じ取りながらひたって歌う場面を設けることにより、音楽に対する思いや願いをもち、心から表現しようとする感性を育てていきたい。

(2) 教材

- ・ドレミのうた (ペギー葉山：作詞 リチャード ロジャース：作曲)
- ・ドレミあそび
- ・かえるの がっしょう (岡本敏明：作詞 ドイツ民謡)
- ・かっこう (小林純一：作詞 ドイツ民謡 浦田健次郎：編曲)
- ・ぷっかり くじら (高木あきこ：作詞 長谷部匡俊：作曲)

目標

(1) 歌ったり身体表現したりして、音高感を身に付けたり、音高に伴う強弱を感じ取り表現できるようにする。

(2) 階名で模唱や暗唱をしたり、これをもとに楽器で演奏したりすることができるようにする。

評価規準

【ア】階名唱に興味をもって、進んで歌ったり身体表現をしたりしようとしている。

【イ】音高や音高に伴う強弱を感じ取った歌い方をしている。

【ウ】旋律を階名で暗唱したり、楽器で演奏したりすることができる。

指導計画及び評価

次	時	ねらい	学習(指導)内容・学習活動	【評価規準】(評価方法)	教材
第 一 次	1		身体表現や階名唱をしながら音楽を聴いて、音高感を身に付けられるようにする。		「ドレミのうた」
	2		「ドレミのうた」の曲の背景を知り楽しく歌ったり、ドレミ体操をしながら音高感を身に付けたりする。 ・ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」の「ドレミのうた」を抜粋して鑑賞する。 ・「ドレミのうた」をドレミの体操をし、音の高さにそって強弱をつけて表現を工夫する。 ドレミあそびをしをし、音高感を身に付ける。 ・短いふしを階名模唱しながら、ドレミ体操をして遊び、音高感を身に付ける。	【ア】 階名唱に興味を示し、進んで階名唱やドレミの体操をしている。 (活動の様子の観察) 【ウ】 音高に合わせて強弱をつけることができる。 (演奏の聴取や活動の様子の観察)	
第 二 次	3		音高や音高に伴う強弱を感じ取り表現したり、楽器で演奏したりできるようにする。		「かえるのがっしょう」 「かっこう」
	4		拍の流れやを感じながら、音高や音高に伴う強弱を感じ取る。 ・拍の流れに乗って旋律を歌う。 ・旋律全体を階名で暗唱する。 ・旋律線をなぞり、音高やそれに伴う強弱を感じ取って歌う。	【ウ】 拍の流れにのって階名唱することができる。 (演奏の聴取や活動の様子の観察) 【イ】 拍の流れやフレーズを感じ取りながら、強弱の表現を工夫している。 (演奏の聴取や活動の様子の観察) (旋律線のカードの記述)	
	5		拍の流れやフレーズを感じ取りながら鍵盤ハーモニカで演奏をする。	【ウ】 階名暗唱した旋律を楽器で演奏することができる。 (演奏の聴取)	
	6		3拍子の拍の流れを感じながら、音高や音高に伴う強弱を感じ取る。	【ウ】 拍の流れにのって階名唱することができる。 (演奏の聴取や活動の様子の観察)	
	7		・範唱を聴いて曲の情景を思い浮かべたり3拍子のリズムをつかんだりする。 ・旋律線をなぞり、音高や音高に伴う強弱を感じ取って表現を工夫して歌う。	【イ】 音高や音高に伴う強弱を感じ取りながら、歌っている。 (演奏の聴取や活動の様子の観察) (旋律線のカードの記述)	
	8		・拍の流れやフレーズを感じ取りながら鍵盤ハーモニカで演奏をする。	【ウ】 拍の流れやフレーズを感じ取って歌ったり楽器を演奏したりすることができる。 (演奏の聴取)	
	9		楽器で演奏する副次的な旋律を歌と合わせたり、短いふしを創作して合わせたりしてその響きを楽しむようにする。		「ぶっかりくじら」
			拍の流れやフレーズを感じ取って歌ったり、副次的な旋律をつくって演奏を工夫したりする。 ・範唱を聴いて曲の情景を思い浮かべたり、自由にステップを踏んで聴いたりして、曲の感じ	【ア】 体を揺らしながら、曲の気分を感じ取って歌っている。 (活動の様子の観察)	

10	をつかむ。 ・主旋律を拍の流れにのって歌う。 ・歌の主旋律と楽器による副次的な旋律の響き合いを感じて演奏する。	【ア】 歌と楽器の音が重なる響きを楽しんで演奏している。 (演奏の聴取や活動の様子の観察)	
11 12	・副次的な旋律の短いふしをつくり、楽器で演奏して楽しむ。	【ア】 旋律を工夫してつくることを楽しみながら意欲的に行っている。 (記述や活動の様子の観察)	

本時の指導（第7時）

1 教材と子ども

(1)教材について 「かっこう」

この曲の原曲は、古くから伝えられるドイツ民謡である。歌詞は、霧に包まれた森を通してどこからともなく聞こえてくるかっこうの鳴き声を求めて散策する母と子の様子を表している。低学年では数少ない3拍子の教材なので、リズム伴奏の学習を取り入れ、3拍子の拍の流れを感じ取りながら歌えるようにしたい。また、ドからソの5音によって構成されており、音高感を感じ取りやすく、リズムも単純で階名模唱や楽器の演奏に適している。

曲の構成は、a b a' で構成されている。第1フレーズと第3フレーズはかっこう鳴き声や呼びかけの声が入っており情景を思い浮かべ感情をこめて歌うことができる。第2フレーズは上行進行する旋律が2回出てくるので、クレッシェンドの工夫ができる。旋律線をなぞらせ、それに沿った強弱の工夫をしたり、歌詞から感情移入して表現の工夫ができるようにしていきたい。

(2)子どもについて

子どもたちはこれまで、「日のまる」や「きらきらぼし」などを中心に階名唱をしたり、鍵盤楽器での演奏を経験し、音高感を少しずつ培ってきている。2年生になって、ドレミで立ったり座ったりするドレミあそびなどを通し、個人差も大きいもののドレミの音高感を身体表現を通して感覚的に感じ取ってきている。

また、それぞれの曲をリズム表現や身体表現を通して、拍の流れを感じ取りながら演奏してきている。

しかし、旋律線をなぞって音高やフレーズを感じたり、音高を強弱表現の工夫に生かしたりする活動はまだ行っていない。

そこで、本題材では、音高感を培いながら、音高が基礎となつてできる強弱を感じながら歌う学習を繰り返して行い、それが一人一人の表現の工夫へとつながる学習を展開していきたい。

2 本時の指導について

本時の指導にあたって、次のような点に留意していきたい。

音高を感じ取って歌う活動では、ドレミ体操の身体表現で楽しく音高を感じ取っていけるようにする。また旋律線をなぞる活動で視覚的に音高を感じ取ることができるようにしていく。

音高に伴う強弱に気付く活動は、中学年・高学年へ向けての音楽的な要素取得の第一歩となる。本時の活動の中では、絵譜で視覚的に表したり歌って確かめる活動を通してこの要素に気付いていけるような活動をしていく。また歌詞の内容など叙情面も大切に扱いたい。

3 目標 音高や音高に伴う強弱を感じ取りながら歌うことができる。

4 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点 研究に関わる支援【 評価規準】	教具・資料
導 入	1 始めの音楽 (8分) (1)ドレミの体操をしたり、 ドレミ遊びをする。 (2)「かえるのがっしょう」 を歌う。	ドレミ体操やドレミ遊びをしながら、音高感やそれに伴う強弱感を感じ取ることができるようにする。 音高にそった旋律線を意識して、強弱をつけて歌うことができるようにする。	ドレミ体操の図 拡大譜 拡大譜 CD
	2 学習課題の把握 (3分) (1)学習内容の把握 ・「かっこう」を歌う。 (2)課題の把握	森の中を想像できるようなストーリーを話し様子を思い浮かべることで、表情豊かに歌えるようにする。 「かえるのうた」でドレミ体操の達人さんを紹介したり、前時までの学習を想起したりし、「かっこう」でも音高の身体表現ができそう、やってみようとい見通しがもてるようにする。	森の絵 効果音 拡大譜 CD
展 開	3 学習課題の解決 (1)音高を感じ取って歌う (12分) ・[かっこう]の旋律線をなぞり音高やフレーズを感じ取りながら歌う。 ・ドレミ体操で身体表現して音高を感じ取って歌う。	前時に行った旋律線の動きを線で表し、フレーズを感じ取りながら歌えるようにする。 ドレミ体操をすることで音高を感じ取り、楽しく歌えるようにする。 うまくできない子どもについては、教師と一緒に練習したり、上手にできている子と一緒に練習できるようにしたりして、どの子も安心して楽しく活動できるようにしていく。 伴奏に強弱をつけ、感覚的に強弱をつけて感情移入しながら歌えるようにする。	拡大譜 CD
	(2)音高を感じ取って表現力豊かに歌っている子どもを紹介する。(5分) (3)音高に伴う強弱を感じ取って歌う。(13分) ・上行進行や下行進行に伴う音の強さについて話し合ったり歌ったりする。	音高を感じ取りながら、感情移入し強弱をつけて演奏している子どもを紹介し、豊かな表現を広めるとともに、音高に伴う強弱表現に気付くきっかけにできるようにする。 友達の演奏から考えたり絵譜で表したりし、子どもたちが話し合いの中で、音高や音高に伴う強弱を気付いていけるようにする。 【イ】 音高や音高に伴う強弱を感じ取りながら歌っている。 (演奏の聴取や活動の様子の観察)	絵譜
終 結	4 本時のまとめ (1)まとめの演奏をする。(3分) (2)次時学習内容の把握(1分)	今日の学習をもとに、子どもたちが音高や音高に伴う強弱に気付き感じ取りながら歌うことができるようにする。 次時の教材でも本時の学習が生かして、鍵盤楽器で演奏することを話し、次時への期待がもてるようにする。	

